

はじめに

私たちは皆子供のような心を内に秘めています。任天堂がノスタルジア的ゲームエミュレーターである”可愛いだけ”のクラシックミニNESを発売すると聞いた時、嬉しくて心が躍りました。1985年発売の任天堂エンターテインメントシステムに類似した2016年度復刻版の最新モデルの中身はどうなっているのでしょうか？

他のゲームコンソールや分解情報にも興味がありますか？ [Facebook](#)や[Twitter](#)、[Twitter日本語版](#)、[Instagram](#) をフォローしてください！

ツール:

- [プラススクリュードライバー\(#00\)](#) (1)
- [ピンセット](#) (1)

手順 1 — 任天堂NESクラシックエディション の分解



- オリジナルの[NESコンソール](#) がリリースされてから30年以上が経った今でも、任天堂はクラシックなスタイルを保った新サイズのゲームコンソールで私たちを楽しませてくれます。
- この小さなエミュレーターボックスには以下のものが付属しています。
 - プレインストールされた30種類のゲーム
 - HDMI 出力
 - 電源供給用のUSB ポート
 - コントローラー
- お楽しみとして、昔のゲームソフトとクラシックエディション用ソフトを並べてみました。大体同じぐらいのサイズです。しかし、この2つの間には何十年という隔たりがあるのです！

手順 2



- さあゲーム時間がやってきました！ゲームタイマーの見守り警告を無視しながら、この宝箱を開けていきましょう。
- まず底ケースからゴム足を剥がすとプラスネジがあります。
- 底ケースを取り出してケース内側を確認しましたが一空っぽです。

手順 3



- 中身は全て下部ケースに搭載されています。そして”全て”といっても大して入っていません。
- すぐさま、ケーブルの接続をパンチしながら外していきます。
 - おそらくご存知でしょうが、マリオは頭でブロックを打ち破っているように見えますが、[実際は拳を使っている](#)のです！
- 合計3本のコネクタの接続を外せました (ボタン用基板、コントローラー1と2):[レベル1クリア!](#)

手順 4



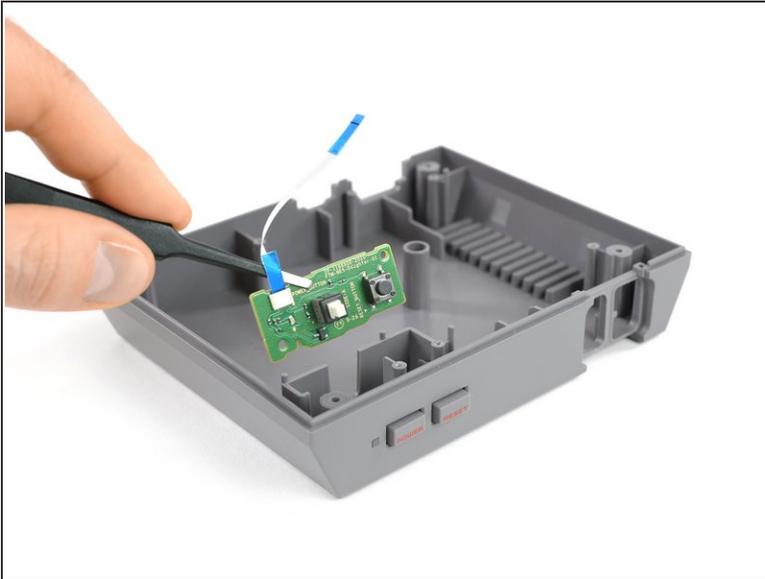
- 基板は美しいメタルシールドの下に搭載されています。これは構造上のサポートだけでなく、放熱の役割があるようです。
- シールドを取ると[前に見たことがある](#)チップのフィールドが待っています。
 - Allwinner [R16](#) クアッドコアCortex A7 プロセッサ、Mali-400MP2
 - 512 MBの [MX30LF4G18AC](#) 4ギガビット Flashメモリ (SNESで使用されていたSpansionフラッシュメモリとは対照)
 - 256 MB of SK Hynix 2 Gb DDR3 SDRAM (H5TQ2G63GFR-RDC)
 - X-Powers AXP223パワーマネージメント
 - Richtek RT7295A 3.5 A 同期降圧型コンバータ

手順 5



- コンソールには1つのコントローラーしか付いていませんが、プレイヤー2のオプションも追加できます。これらのポートを取り出すまでの話ですが！
- ⓘ ポートはWii用リモートに搭載されていたものと同一です。ということはWiiのクラシックコントローラーをNESクラシックに接続できます。
 - 推測できるように、これらのポートは[オリジナルのNES](#)やファミコン本体のコントローラポートを改良したものです。
- よくある”やっつけ”修理ではいつも成功しません。だからここで使われているモジュール式を見ると嬉しくなります。しかし残念なことに、USBとHDMI共に基板上で半田付けされています。

手順 6



- さて最後の分解へのカウントダウンです：次はボタンアセンブリです！
- この自称、ドーターボード/サブ基板は (綺麗にラベルが貼られた)電源とリセットボタン、ステータスLEDのチップを搭載しています。
- ⓘ オリジナルモデルと比較して、明らかにこのコンソールから取り除かれたものは[拡張ポート](#)です。オリジナルモデルではこのポートの使用頻度が少なかったため、このポートがなくなってもさほど[大きな違いはない](#)でしょう。

手順 7



- さてボーナスレベルです:コントローラーの分解です！
- ゴム製プラグはないため、このコントローラーに使われているネジを簡単に確認できます。コントローラーの中身：1つのコネクタが付いたベア(裸)ボードです。
 - ケーブルは内部で綺麗に枝分かれされており、コネクタにかかるストレスを軽減しています。
- ボードの正面側は1つのチップ、受動コンポーネントとボタン用の接地面以外は特に何もありません。
- ① これらのボタンは、まるでリモートコントローラーが沢山あるようです。ボタンを押すと、電流が巡回して導電ペイント間の隙間に繋がるのです。一まるでマリオがすごい技を成し遂げたようです！

手順 8



- これで終了です！分解後に並べたコンポーネントはあまり多くありませんが、8ビット以上はあることは確かです。。

手順 9 — リペアビリティのスコア

REPAIRABILITY SCORE:



- 任天堂クラシックミニNESのリペアビリティのスコアは10点中8点です。(10点が最も修理しやすい指標)
- 標準プラスネジのみ使用されています。
- 壊れやすいプラスチックのクリップや強力な圧着剤は使用されていません。
- ボタン用基板やコントローラーポートを含む多くのコンポーネントがモジュラー式です。
- ソリッドステートのNESクラシックチップはデバイスの消耗を軽減してくれますが、アップグレードは恐らく不可能です。
- HDMIとUSBポートがメイン基板に半田付けされているため、修理は複雑になります。